

修士論文(要旨)
2015年1月

中国人留学生のインターンシップ場面におけるインターアクション行動

指導 宮副ウォン裕子 教授
桜美林大学
言語教育研究科
日本語教育専攻
213J3014
鄭 殊

Master' s Thesis(Abstract)
January 2015

An Interactive Analysis of Chinese Students in Internships in Japan

Zheng Shu
213J3014

Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor:Yuko Miyazoe-Wong

目次

第1章 はじめに	1
1.1 研究の背景と目的	1
1.2 用語の定義	2
第2章 先行研究	5
2.1 インターンシップ	5
2.2 接触場面におけるインターアクション	6
2.3 インターアクション・インタビュー	8
第3章 調査概要	10
3.1 調査協力者	10
3.2 調査方法	11
3.3 分析方法及び枠組み	12
第4章 調査結果と分析考察.....	15
4.1 CF1のインターアクション行動	15
4.2 CF2のインターアクション行動	27
4.3 CMのインターアクション行動	35
第5章 総合的考察.....	44
5.1 インターンシップにおける場面と調整行動	44
5.2 インターンシップ接触場面における規範	45
第6章 おわりに	48

参考文献

巻末資料.....

a

巻末資料 1ー7名のインターアクション・インタビューの協力者

巻末資料 2ーインターアクション・インタビューの承諾書

巻末資料 3ーインターアクション・インタビューの文字化資料(抜粋)

要旨

第1章 はじめに

近年、経済など様々な分野で活発に行われている世界各国との相互交流に伴い、日本に留学し、卒業後も引き続き日本での就職を望む外国人が増加している。このうち、中国出身者は最多である。大学等は、社会人として必要な能力を有する人材育成が求められる中、「社会基礎力」の向上に有効だと見られる手段として、インターンシップを重要視している。インターンシップ場面において、中国人留学生は日本企業側に高い評価をもらうため、自分を良く見せようとして行動するのだが、それがどのようなものか、どのような特徴があるのかなど、そのインターアクションを研究することには意義があると考えられるが、中国人留学生のインターンシップの参加実態や特徴は、管見のかぎり明らかにされていない。本研究では、インターンシップに参加した中国人留学生を対象としてインターアクション・インタビューを行い、1) 彼らの参加する場面、2) 他の参加者とのインターアクション行動を調査した。

第2章 先行研究

「インターンシップ」「接触場面におけるインターアクション」「インターアクション・インタビュー」の三つの領域から先行研究を概観した。

第3章 調査概要

本研究の調査対象者は日本の大学に所属している中国人留学生3名(CF1、CF2、CM)である。データの分析と考察は言語管理理論に基づき、調整行動とその規範に焦点を絞り、村岡(2006)の「調整行動とその志向する規範」及び、ネウストプニー(1982)の「8つのコミュニケーション・ルール」という二つの理論的枠組みに沿って行った。

第4章 調査結果と分析考察

CF1、CF2、CMのインタビューデータから実質行動を抽出し、3人それぞれのインターンシップ場面におけるインターアクション行動について分析と考察を行った。結果、「課題達成型」のインターンシップには、食事、役割分担決定、課題内容決定、担当内容決定といった場面が現れ、それぞれの場面における実質行動を遂行するため、3名の中国人留学生は、「8つのコミュニケーション・ルール」を操作しつつ、様々な調整行動を行っていることが分かった。

第5章 総合的考察

CF1、CF2、CMが実施した調整行動の規範を総合的に考察すると、3人はインターンシップの参加者として、グループメンバーの性格や構成といった他者の影響を受け、課題の内容、そしてそれぞれの目標と方針に応じるため、存在しているたくさんの規範のうちいくつかを選択し、インターンシップ場面の基底規範を形成していることが明らかになった。そして、それぞれの方向性によっては、その場面において適用される多くの規範の種類に違いが現れ、コミュニケーションを優先させるのか対人関係を優先させるのかといった判断、そしてグループメンバーの構成により、それぞれが取る調整行動にも差が現れたと考えられる。さらに、3人のインターアクション行動には規範の変容という共通点が見られ、規範はより文脈依存的かつ動的なものであることが明らかになった。

第6章 おわりに

本研究では、具体的な事例をインターアクション・インタビューによって採取することにより、中国人留学生のインターンシップの参加実態を探り、これまでほとんど解明されなかった中国人留学生の日本語母語話者とのインターンシップ接触場面でのインターアクション行動の一端が明らかになった。また、研究結果に基づいて、インターンシップと職場におけるインターアクション能力との関係や、インターアクション行動の研究が日本語教育にもたらす示唆などを提示し、今後の研究課題に方向を示した。

参考文献

- 麻生貴美(2004) 「講義場面における留学生のインターアクション問題に対する調整行動—非言語行動としての頭部動作を中心に—」 『早稲田大学日本語教育研究』5 pp. 19-44
- 岩本尚希・三国喜保子・鹿田葉子・宮副ウォン裕子(2009) 「ヴァーチャル映画討論会における言語の社会化」 『2010年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp. 58-67
- 金子信子(2001) 「日本語非母語話者の文字接触と言語管理—非漢字圏出身者の言語生活」 桜美林大学大学院修士論文
- 鎌田修(2003) 「接触場面の教材化」 『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト—』 明治書院 pp. 69-353
- 楠奥繁則(2006) 「自己効力論からみた大学生のインターンシップの効果に関する実証研究」 『立命館経営学』第44巻第5号 pp. 169-184
- 佐藤博樹・堀喜衣・堀田聰子(2006) 『人材育成としてのインターンシップ—キャリア教育と社員教育のために—』 労働新聞社
- 高野篤子(2006) 「本格的な導入事例にみるインターンシップの課題と対策—ある四生女子大学の試み—」 『大学教育学会』第28巻 pp. 134-138
- 高良美樹・金城亮(2001) 「インターンシップの経験が大学生の就業意識に及ぼす影響—職業レディネス・進路選択に対する自己効力感を中心として—」 『琉球大学法文学部紀要』8 pp. 39-57.
- 田中宣秀(2007) 「高等教育機関におけるインターンシップの教育効果に関する—考察—新たな意義をみだし、改めて「効果」を考える—」 『日本インターンシップ学会年報』10 pp. 7-14
- 田畑理咲・都恩珍(2006) 「学習者参加型日本語学習における口頭発表スキルの習得過程」 『桜花学園大学人文学部研究紀要』8 pp. 169-186
- 鄭圭弼(2010) 「異文化間職務遂行におけるインターアクション—韓国人ビジネス関係者を対象としたインタビューから—」 『日本語教育』51 韓国日本語教育学会 pp. 113-126
- 鄭圭弼(2012) 「韓日ビジネス場面におけるインターアクション行動—実質行動の遂行過程に関する実証的研究—」 桜美林大学大学院国際学研究科博士論文
- ネウストプニー, J. V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』 岩波書店
- ネウストプニー, J. V. (1994) 「日本研究の方法論—データ収集の段階」 『待兼山論叢』 日本学篇大阪大学文学部 pp. 1-24
- ネウストプニー, J. V. (1995) 『新しい日本語教育のために』 大修館
- ネウストプニー, J. V. (1999) 「コミュニケーションとは何か」 『日本語学』 pp. 4-18
- ネウストプニー, J. V. (2002) 「インターアクションと日本語教育—今何が求められているか—」 『日本語教育』112 日本語教育学会 pp. 1-14
- ファン, S. K (2006) 「接触場面のタイポロジーと接触場面研究の課題」 『日本語教育の新たな文脈—学習環境, 接触場面, コミュニケーションの多様性』 国立国語研究所編 pp. 41-120
- 宮崎里司・麻生貴美(2007) 「アカデミック接触場面におけるインターアクション行動分析—アイカメラを使った視線の軌跡検証による新たな方法論の試み—」 『早稲田大学日本語教育研究』10 pp. 1-15
- 宮副ウォン裕子(2003) 「多言語職場の同僚たちは何を伝えあったか—仕事関連外話題における会話上の交渉—」 『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト—』 明治書院 pp. 164-184
- 宮副ウォン裕子(2005) 「多言語職場の会話上の役割交渉」 『2005年度日本語教育学会春季大会予稿集』 日本語教育学会 pp. 195-200
- 村岡英裕(2002) 「質問調査: インタビューとアンケート」 『言語研究の方法』 くろしお出版 pp. 125-142
- 村岡英裕(2006) 「接触場面における社会文化管理プロセス—異文化の中で暮らすとはどのようなことか—」 『日本語教育の新たな文脈—学習環境, 接触場面, コミュニケーションの多様性』 国立国語研究所編 pp. 95-172
- 矢作千春(2002) 「チューター場面における言語管理—チューターの管理プロセスを中心に—」 『千葉大学大学院社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』38 pp. 57-69
- 横須賀柳子(2013) 「インターンシップ場面での課題遂行過程におけるインターアクション行動」 『2013年度日本語教育学会春季大会予稿集』 日本語教育学会 pp. 62-65